C 28　東北地方における婦人の食行動及び食習慣の変化（第三報）
－地域別７年前との比較－

岩手県立盛岡短大　○森　成子，　尚絅女学院短大　佐藤妙子　佐藤玲子
仙台白百合短大　沼倉久枝，　福島女子短大　内堀愛子，　宮城学院女子大　伊藤静子

目的　昭和58年に太平洋側の岩手・宮城・福島３県の都市、農業地域、漁業地域について、食行動及び食習慣の調査を行った結果、地域環境と住民の意識への関与が示唆された。情報の氾濫、流通機構の発達、核家族化の進行が更に進みつつある中で地域の食生活への影響について、同じ地域を調査し、前回の結果と比較したので報告する。

方法　平成２年10～11月、30～40歳代の婦人を対象に、都市752名（752名）、農業地域　732名（799名）、漁業地域520名（602名）、計1995名（2153名）について、ｱﾝｹｰﾄにより留置法で調査を行った。なお、括弧内の数字は昭和58年の調査対象数である。

結果　1.対象者概況：年齢はS58が30歳代約６割、H2は30歳代40歳代が半々であった，健康状態は「便秘がち」が各地域とも有意に増加し、「朝気分よく起きられない」は農業、漁業地域で増加していた。2.食行動：「家族揃って食事をする」割合は、朝食が都市と漁業地域で、夕食は農業、漁業地域で有意に減少していた。婦人の欠食は各地域とも増加し、その理由として「時間の余裕がない」が各地域で、「習慣」は前回低かった漁業地域で高くなり、「痩せたいため」は都市と漁業地域で高かった。「出前、持ち帰り弁当の利用」は特に都市と漁業地域で増加し、前回一番利用の低かった漁業地域が農業地域より利用率が高くなっていた。「家族揃っての外食」も漁業地域での増加が目立った。3.食習慣：蛋白性食品では各地域共通として肉及び魚の加工品の摂取頻度の減少がみられ、都市は肉の減少卵の増加、農業地域は卵の減少豆製品の増加、漁業地域は魚の減少卵・豆製品の増加がみられた。みそ汁、漬物の減少が各地域とも目立ち、特に漬物の「殆ど毎日食べる」割合が減少、都市が著しかった。